

## I. 生成AIガイドライン作成の目的

### 1 作成の背景

### 2 作成の目的

### 3 適用の範囲や対象

(1) 対象とする職員

全職員

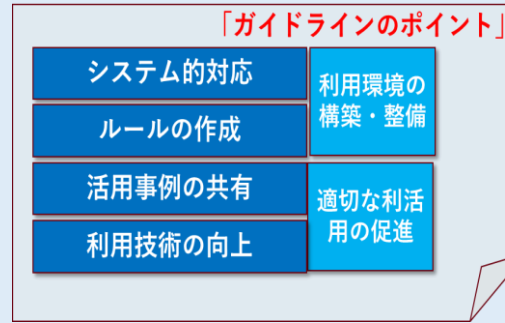
(2) 対象とする業務

庁内業務全般

(3) 対象とするシステム

デジタル推進局  
が指定する生成  
AIサービス

### 4 作成過程



## II. 山口県の利用環境 (試行・実証の状況)

### 1 利用環境 (システム等)

やまぐちDX推進拠点「Y-BASE」のクラウドシステム「Y-Cloud」を活用した、セキュリティ性が高い「Azure OpenAI Service」(実証中)

### 2 利用方法

## III. 利用上のルール等

### 1 利用上のルール

その1【個人等の情報・機密情報の保護】個人情報等や機密性の高い情報は入力しない。

その2【著作権等保護】生成された回答について、著作権・商標権・個人の権利等を侵害していないかを利用者自身が確認した上、利用する。

その3【情報の正確性の確認】生成された回答の根拠や、その裏付けを必ず利用者自身が確認するとともに、誤った価値観による無意識の思い込みや差別的な内容が含まれていないか確認する。

その4【成果物等の信頼性確保】原則、生成された回答を対外的な公表資料や外部への回答にそのまま利用しない。そのまま利用する場合は、必ず所属長の承認を得た上で、その記述が生成AIにより作成されていることを明記する。

### 2 問題発生時の対応等

## IV. 活用事例

参考2

### 1 プロンプト (生成AIへの指示文) の作成方法

#### ■ 文章作成の基本的なポイント

- ①プロンプトは具体的かつわかりやすい言葉で作成する
- ②条件などがある場合は、明確に指示する
- ③生成された回答に対し、指示を繰り返すことにより回答を修正させることもできる
- ④生成する文章の定量を明確に指定する
- ⑤文章を生成する立場を明確に指示する

### 2 有効な活用分野・事例、有効でない事例の紹介

#### (1) 有効な活用分野

- ①対話形式による情報収集
- ②業務の論点・課題の洗い出し
- ③企画立案に向けたアイデア出し
- ④作業手順・手法の提案を求める
- ⑤システム等へ入力するコードの下書き
- ⑥立場に応じた説明・言い替え
- ⑦公開情報や公開を前提とした文書の要約、校正、翻訳
- ⑧あいさつ文や説明文、想定問答の下書き
- ⑨ブレインストーミング

#### (2) 有効でない事例

- ①固有物(人・地名等)の特徴について尋ねる
- ②単語だけで一回のみの抽象的な質問をする
- ③最新の情報やトレンドについて尋ねる
- ④感想を尋ねる

## V. 利用技術の向上

### 1 必要な利用技術

- ①AIの特性習得等
- ②プロンプトエンジニアリング
- ③デザイン思考
- ④デジタル時代のマネジメント能力

### 2 デジタル人材育成研修

- ・生成AIをはじめ、AI関連の利活用に係る必要な研修等をデジタル人材育成研修等において、e-ラーニング等を基本に実施

## VI. 参考資料

その他のガイドライン等

# 対話式文章生成AI利活用ガイドライン (Ver1.0)

令和5年(2023年)11月24日

総合企画部デジタル推進局デジタル・ガバメント推進課

# 【目次】

<b>I. 生成AIガイドライン作成の目的</b>	<b>P 3</b>
1 作成の背景	P 4
2 作成の目的	P 5
3 適用の範囲や対象	P 6
4 作成過程	P 7
<b>II. 山口県の利用環境（試行・実証の状況）</b>	<b>P 8</b>
1 利用環境（システム等）	P 9
2 利用方法	P12
<b>III. 利用上のルール等</b>	<b>P14</b>
1 利用上のルール	P15
2 問題発生時の対応等	P20
<b>IV. 活用事例</b>	<b>P21</b>
1 プロンプト（生成AIへの指示文）の作成方法	P22
2 有効な活用分野・事例、有効でない事例の紹介	P32
<b>V. 利用技術の向上</b>	<b>P51</b>
1 必要な利用技術	P52
2 デジタル人材育成研修	P54
<b>VI. 参考資料</b>	<b>P54</b>
・ その他のガイドライン等	P55

# I 生成AIガイドライン作成の目的

- 1 作成の背景
- 2 作成の目的
- 3 適用の範囲や対象
- 4 作成過程

## (1) 対話式生成AIの登場

生成AIは、これまでのAI（人工知能）と異なり、専門知識がない人でも、対話形式により、文章や画像、プログラム作成などを行うことができる革新的な技術であり、米国のオープンAI社が令和4年（2022年）11月に公開した対話式文章生成AI「チャットGPT」は、利用者が入力した質問に対して、回答を自然言語で生成し、自然な対話形式で回答する画期的なサービスとして話題になり、瞬く間に国内外で普及・活用に至っています。

## (2) 生成AI（技術・システム）の特徴等

AI（人工知能）に対して、人間相手に対話するような自然な文章で、指示（プロンプト）を与えることにより、文章を対話形式で生成・応答してくれる技術・システムです。

これまでのAIのシステム等が人間が回答を導き出すための解析や分析が主な機能であったのに対し、生成AIは求める回答に近いものを提供することが可能となりました。また、通常の検索機能に加え、対話形式で質問・指示を繰り返していくことで、テーマや文章などを「深掘り」していくことも可能な上、文章の要約や添削など、様々な文章生成機能を持っています。

一方で、利用者が入力する情報は、基本的には、AIの学習に使用されるため、情報漏洩の危険性がある上、全ての分野、最新の情報を学習しているものではないため、回答の正確性や、著作権の侵害など、様々な課題も指摘されています。

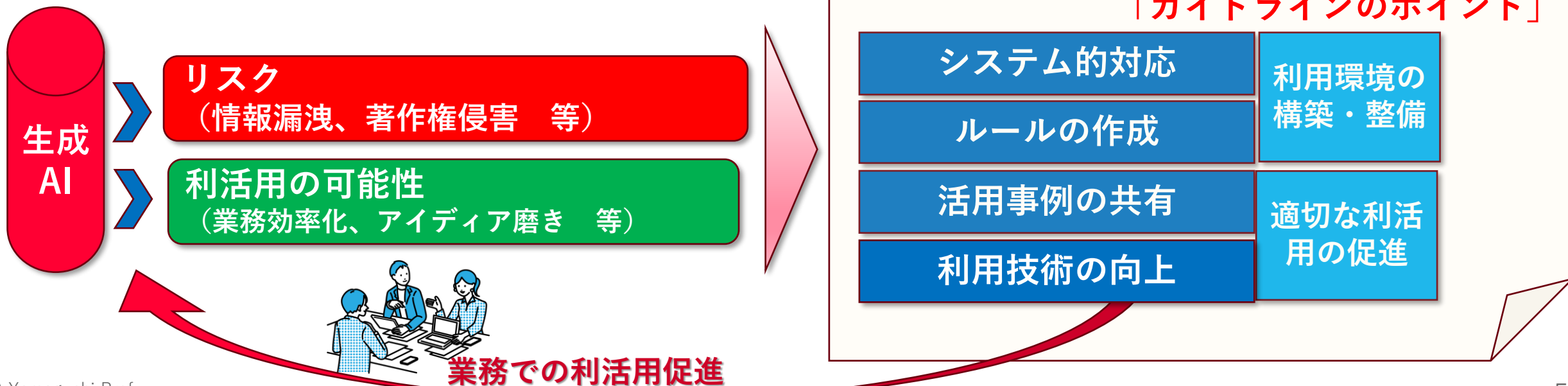
行政分野をはじめ、業務上の保秘性を強く求められる分野・業務においては、特に、こうしたリスクへの対応が不可欠となっています。

人口減少の進展や県民ニーズの多様化など、行政の業務の効率化や、新たな価値創出（県民サービスの向上）が求められている中で、本県の行政DXを更に加速化するためにも、リスクや課題を回避・解決しながら、行政分野における業務での利活用を促進するためのルールづくりが必要となっています。

また、本県のデジタル社会実現に向け、助言をいただくCIO補佐官等からも、「生成AIが今後、社会・経済を爆発的な速度で大きく変えていくことに備え、県は遅れることがなく対応できるよう、速やかに対応すべき。」との意見をいただいています。

本ガイドラインは、生成AIについて、そのリスクを把握・回避し、適切かつ効果的に活用することを目的に作成するものであり、守るべきルール等を示した利用方針などに加え、効果的な活用事例や、生成AIからの的確な応答を引き出すための指示（質問）方法等も盛り込んでいます。

このガイドラインをもとに、様々な行政分野での活用を進め、業務の効率化や県民サービスの向上に向けた新たな価値の創出に係る取組の促進を目指していきます。



本ガイドラインが対象とする利用者（職員）及び利用システムは、以下のとおりとしています。

#### (1) 対象とする職員

全職員

#### (2) 対象とする業務

庁内業務全般

#### (3) 対象とするシステム（Ⅱ 1 「利用環境（システム等）」に詳細掲載）

- 庁内業務で使用する場合、県（デジタル推進局）が指定する生成AIサービスとします。
- 試行(実証) 期間中においては、以下のシステム（サービス）としています。
  - ・ Y - B A S E のクラウドシステム「Y-Cloud」に構築した県専用・県独自のシステム

##### (主な機能等)

- ・ Azure OpenAI Service GPT-3.5-Turbo
- ・ チャット機能、利用管理機能（上限設定等）、アカウント管理機能装備
- ・ ナレッジ機能（庁内情報検索機能）

本ガイドラインについては、庁内に設置した「生成AI活用検討チーム」を中心に、外部人材等有識者等の知見や情報も踏まえ、生成AIを適切に利用するために作成しました。

(※本ガイドラインは、今後も必要に応じて、随時改定していく予定です。)

### 「AI活用検討チームについて」

行政DX及び働き方改革推進の取組の一環として、生成AIを活用した職員の事務の効率化・高度化に向けた検討を行うチームです。

- ・ 構成メンバー：デジタル推進局を中心に、庁内各部局職員17名で構成  
 リーダー：デジタル・ガバメント推進課副課長  
 構成員：デジタル推進局関係班長及び各部局に配置しているデジタル推進局兼務職員
- ・ 主な活動内容：技術情報や、利用時における感想、意見、要望等の収集・取りまとめ

#### 庁内での新たな利活用方法や実装等に係る検討全般 等

◆活動状況	R5.4.28	設置。全庁での生成AI試行を開始
	R5.5.11	生成AIをテーマとしたCIOミーティングを開催・参加（※随時、セミナー、勉強会、事業者等からの情報収集・意見交換等を実施）
	R5.5.29	Y-BASEイベント【生成AIセミナー「生成AIの現状と可能性」】に参加
	R5.6	活用事例集作成、課題とりまとめ
	R5.7～	システム的対応検討。県独自の実証環境を構築・実証
	R5.11	ガイドライン作成（Ver1.0）



## II 山口県の利用環境（試行・実証の状況）

### 1 利用環境（システム等）

### 2 利用方法

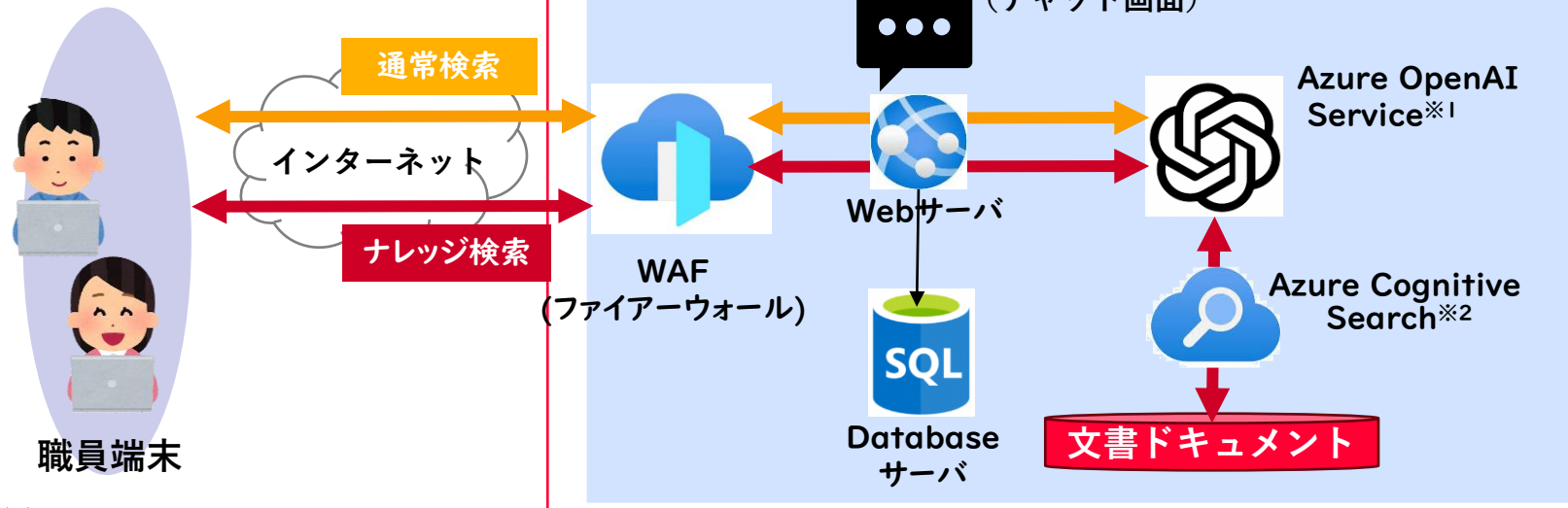
# 1 利用環境（システム等）

## ① システム構成（Y-Cloud機能追加）

インターネットに公開された文書生成AIの利用においては、入力データが学習データとして活用される等、セキュリティリスクの課題があります。そこで職員が、より安全に業務に活用できるようにするため、やまぐちDX推進拠点「Y-BASE」のクラウドシステム「Y-Cloud」を活用した、セキュリティ性が高い「Azure OpenAI Service」による文書生成AIの実証環境を構築しました。

### <システム構成>

- ・マイクロソフトの国内サーバを利用しているため、セキュリティ性の高い閉じた環境において利用可能



※1 Azure OpenAI Service  
 ・生成AIをMicrosoft Azureの環境上で利用できるサービス  
 ・入力データを学習目的で利用されないこと、また入力データを保持しない設定を行うことで、セキュアな文書生成AIの活用が可能

※2 Azure Cognitive Search  
 ・ドキュメント等の個別データから回答を生成する際に利用するサービス  
 ・庁内ナレッジ（ドキュメント）を基にした回答を得ることが可能

## ② システム上のセキュリティ対策

Azure OpenAI Serviceを活用したシステムを構築することで、高い情報セキュリティの確保、及び生成AI活用時の入力データの学習データへの活用を回避しており、業務で安心して活用することができます。

項目	生成AIサービス（Azure OpenAI Service利用）における対応
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Azure（マイクロソフト社）のセキュリティ基準に準拠</li> <li>• Azure内の閉じたネットワーク環境によるデータ保護</li> </ul>
データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データについては、保持しないように設定されているため、入力データを生成AIの学習や改善するために使用しない。</li> <li>• 入力データは、利用者（県）専用の微調整にのみに使用</li> </ul>
プライバシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本の法律を準拠法とし、東京地方裁判所を管轄裁判所として契約</li> </ul>
SLA（稼働率）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 99.9%以上の稼働率を保証</li> </ul>
ログ管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 万が一、セキュリティインシデントが発生した場合に、迅速に原因分析、対応等を実施するため、生成AIサービス利用時のログを蓄積、管理する</li> </ul>

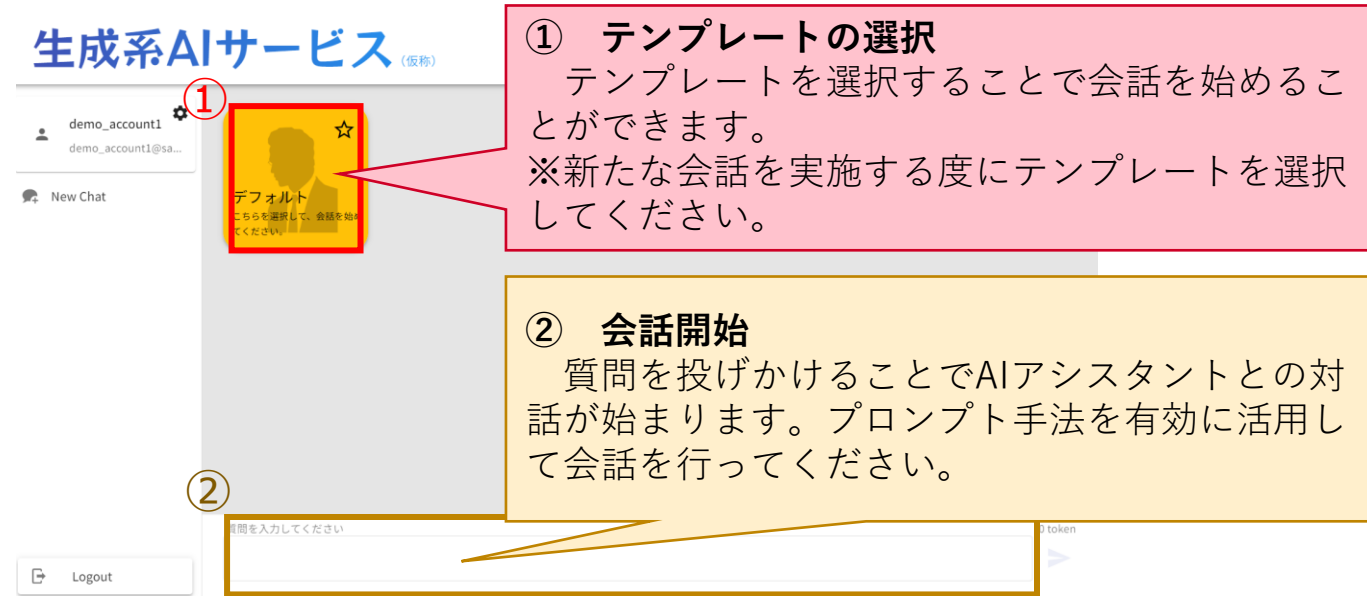
### ③ 生成AIによるテキスト生成について

施行（実証）環境においては、業務での活用を促進するために、業務シーンを想定したテンプレートを準備しています。利用の際は、活用シーンに応じて、テンプレートを選択し、質問を実施してください。なお、高度な回答を導くために、有効なプロンプトの手法（IV「活用事例」）を参考に、質問を行ってください。

#### < テンプレート（R5.11現在） >



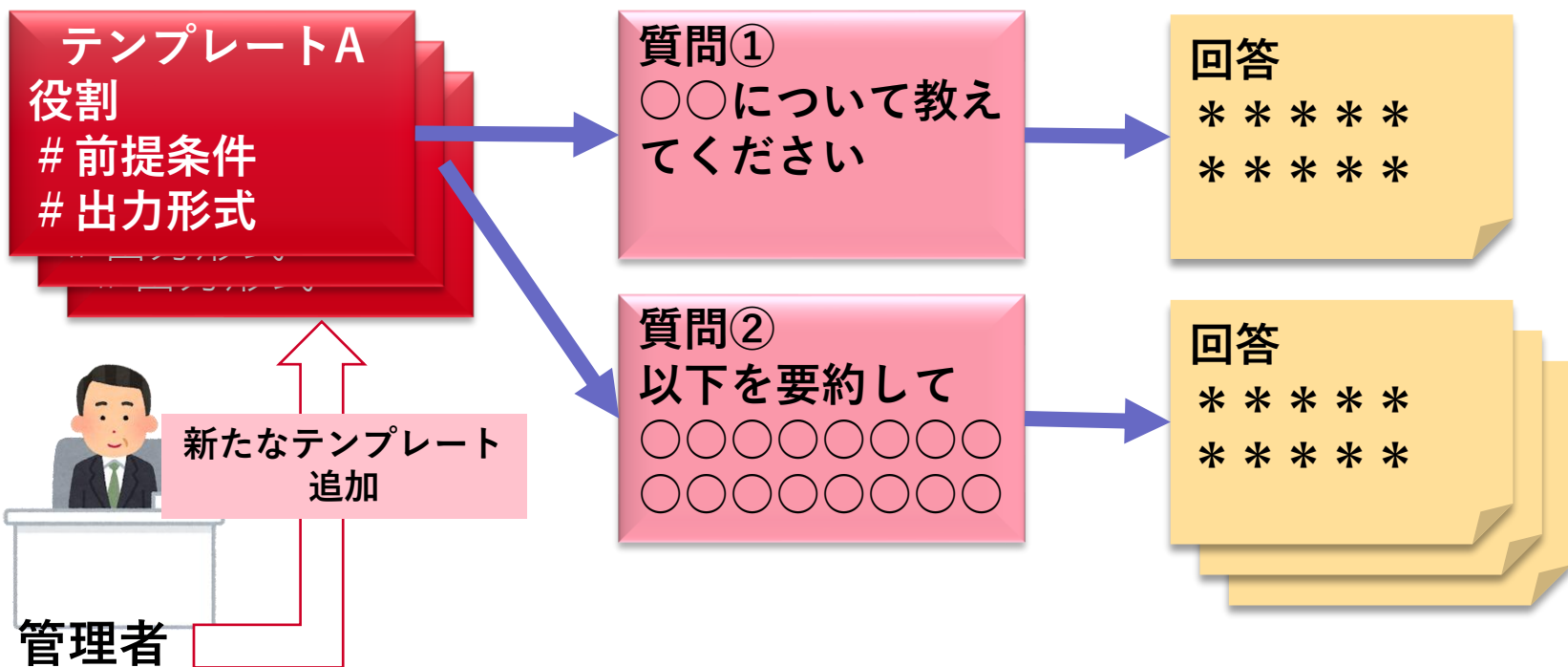
#### < 利用システムのUI >



### ① テンプレート機能

生成AIの使い方がわからない、利用シーンが思い浮かばない場合にテンプレート機能を活用することができます。管理者がテンプレートを作成し、県庁内全体での共有を行ったり、部署内での優良なテンプレートの展開を実施することができます。

<テンプレート共有イメージ>



- ✓ 生成AIに不慣れな人向けにプロンプトテンプレートを提供
- ✓ 利用者は、質問内容に応じたテンプレートを選択し、質問を行います
- ✓ 社内、チーム内でテンプレートを共有しノウハウを高めることが可能です

## ② 利用上のルールへの厳守

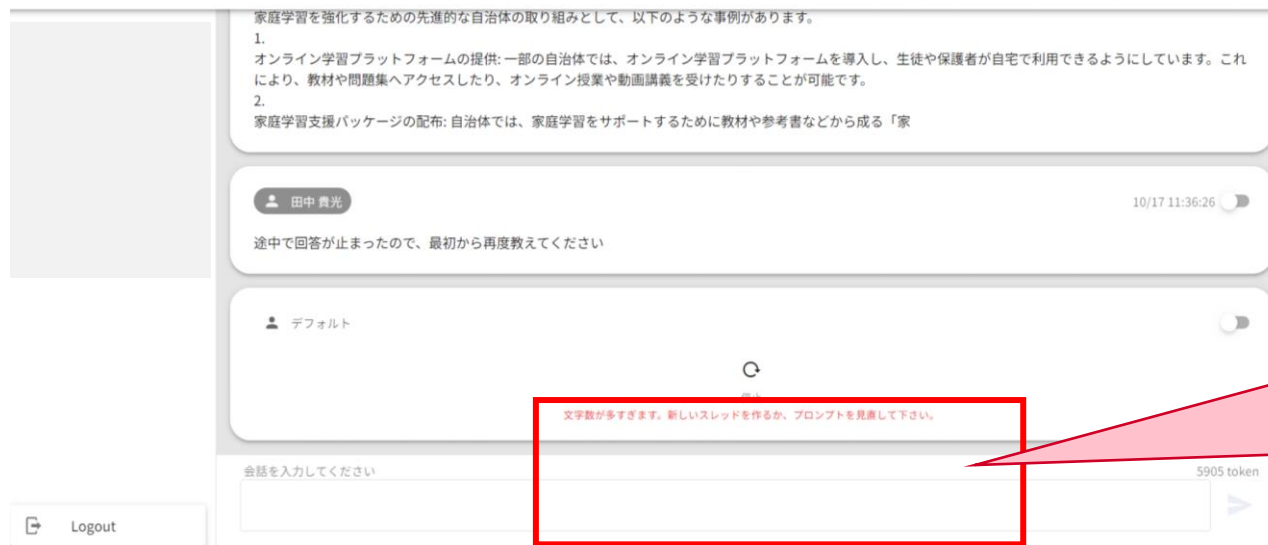
III 「利用上のルール等」に示している利用上のルールを理解・遵守してご利用ください。

## ③ Token(※)の上限について

(※) プログラミングコード上で意味を持つ最小単位の文字の並びで、1文字あたり1トークンが概ねの目安とされています。

チャットのスレッドにおけるやり取りにおいて、1スレッド当たりのtokenの上限に達するとそれ以上の会話を続けることができないため、その場合は、新たなスレッドを作って会話を実施してください

### 生成AIサービス (仮称)



「文字数が多すぎます。新しいスレッドを作るか、プロンプトを見直して下さい。」

Token上限に達した場合、エラーメッセージが表示されます。  
継続して実施される場合は、新たなスレッドを作成してください。

## Ⅲ 利用上のルール等

### 1 利用上のルール

### 2 問題発生時の対応等

庁内で利用する際のルールは、大きく、以下の4項目とします。

## その1【個人等の情報・機密情報の保護】

個人情報等や機密性の高い情報は入力しない。

## その2【著作権等保護】

生成された回答について、著作権・商標権・個人の権利等を侵害していないかを利用者自身が確認した上、利用する。

## その3【情報の正確性の確認】

生成された回答の根拠や、その裏付けを必ず利用者自身が確認するとともに、誤った価値観による無意識の思い込みや差別的 content が含まれていないか確認する。

## その4【成果物等の信頼性確保】

原則、生成された回答を対外的な公表資料や外部への回答にそのまま利用しない。そのまま利用する場合は、必ず所属長の承認を得た上で、その記述が生成AIにより作成されていることを明記する。



## その1 【個人等の情報・機密情報の保護】

個人情報等や機密性の高い情報は入力しない。

生成AIサービスは外部サービスであり、セキュリティ対策やデータの取扱いなどについて特別な扱いを求めることができないため、情報漏えい防止の観点から下表に示す個人情報をはじめとする要機密情報を取り扱うことができません。

具体的には、下表にある重要性分類の「Ⅰ」「Ⅱ」は入力してはいけません。

### 【山口県情報セキュリティポリシーに規定する行政情報の分類】



	重 要 性 分 類	機密性（情報が漏えいし、暴露された時の影響度）
Ⅰ	県民生活や県政全体に重大な影響を及ぼす情報	個人情報（県民、職員）、企業の営業機密
Ⅱ	業務の執行等に重大な影響を及ぼす情報	重要な意思形成過程・行政運営情報、請負・委託等の外注管理情報、情報システム設定情報
Ⅲ	業務の執行等に軽微な影響を及ぼす情報	軽易な意思形成過程・行政運営情報
Ⅳ	上記以外の情報	公開情報

## その2【著作権等保護】

生成された回答について、著作権・商標権・個人の権利等を侵害していないかを利用者自身が確認した上、利用する。

生成AIから得られる回答については、下表に例示したように著作権等を侵害する可能性があり、慎重な取り扱いが求められるため、生成された回答が他者の権利を侵害していないかを利用者側で十分に確認してから利用してください。

	種 別	留 意 事 項
①	著作権侵害	生成AIからの生成物が、既存の著作物と同一・類似している場合は、当該生成物を利用（複製や配信等）する行為が著作権侵害に該当する可能性があります。特に生成物を「利用」（配信・公開等）する場合には、生成物が既存著作物に類似しないかの調査を行うようにしてください。
②	商標権・意匠権侵害	生成AIを利用して生成したキャッチコピーなどを使う行為は、他者が権利を持っている登録商標権や登録意匠権を侵害する可能性がありますので、生成物が既存著作物に類似しないかの調査に加えて、登録商標・登録意匠の調査を行うようにしてください。
③	虚偽の個人情報・名誉毀損等	個人に関する虚偽の情報を生成する可能性があります。虚偽の個人情報を生成して利用・提供する行為は、個人情報保護法違反や、名誉毀損・信用毀損に該当する可能性がありますので、そのような行為は行わないでください。

### その3 【情報の正確性の確認】

生成された回答の根拠や、その裏付けを必ず利用者自身が確認するとともに、誤った価値観による無意識の思い込みや差別的な内容が含まれていないか確認する。

生成AIにより生成された「回答」については、表現や言い回しが自然で、正確な印象を与えてしまいますが、誤った情報が含まれていたり、最新の情報が反映されていない可能性があります。

必ず、「回答」の根拠や裏付けを確認するようにしてください。

また、生成された「回答」に偏った価値観による無意識の思い込みや差別的な内容が含まれていないか、合わせて確認するようにしてください。

## その4 【成果物等の信頼性確保】

**原則、生成された回答を対外的な公表資料や外部への回答にそのまま利用しない。そのまま利用する場合は、必ず所属長の承認を得た上で、その記述が生成AIにより作成されていることを明記する。**

生成AIは大量のデータをAIが学習していて、質問を入力すると人間が作成するような自然で説得力がある文章をすぐに作成することができる一方、生成された回答は、インターネット上の情報を収集して機械的に自動生成されたものであり、誤りや著作権の侵害等の可能性があるため、原則、対外的な公表資料や外部への回答にそのまま利用しないでください。

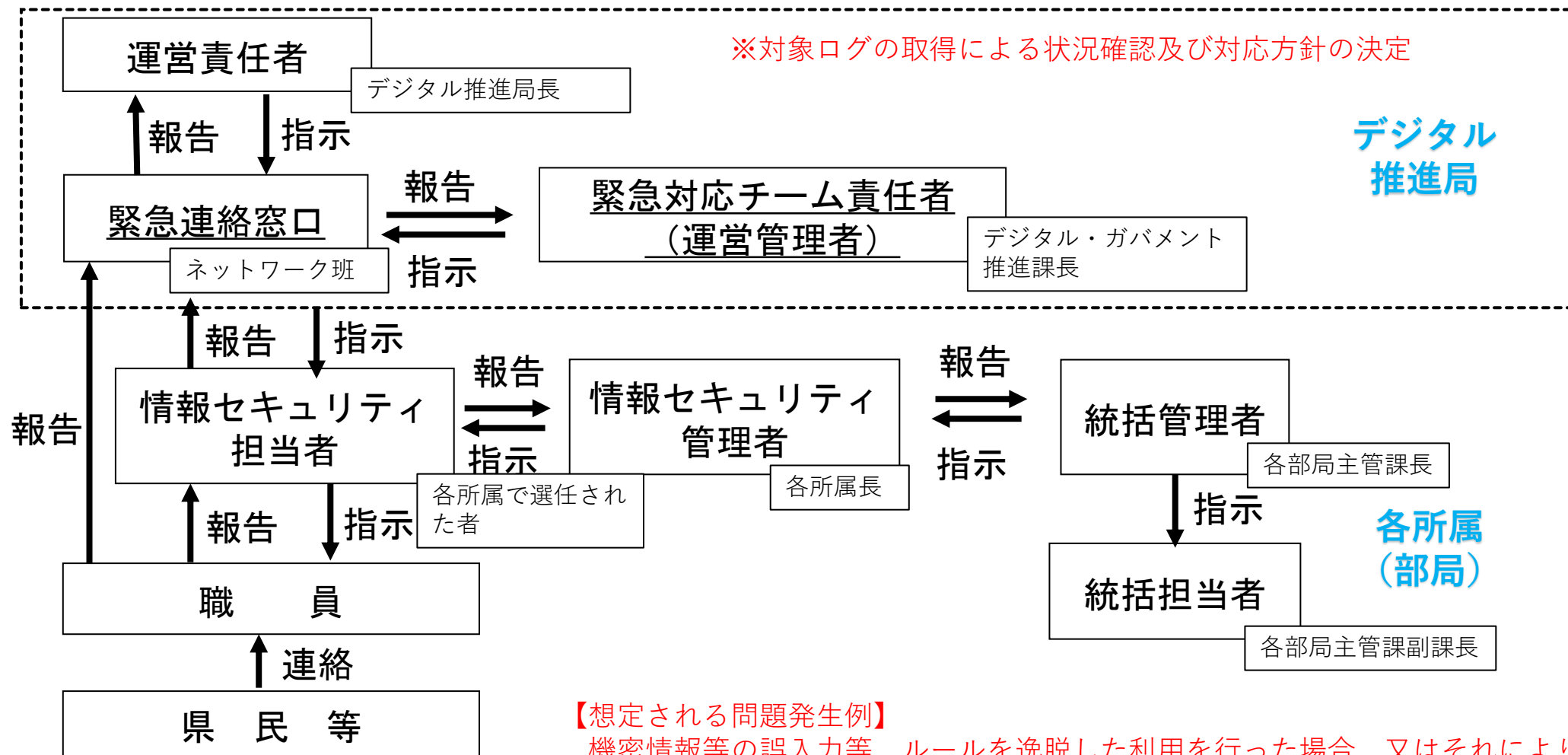
### 【生成された回答を対外的な公表資料や外部への回答にそのまま利用する場合の条件】

- ☑ 山口県情報セキュリティポリシーに規定する「Ⅰ 県民生活や県政全体に重大な影響を及ぼす情報」及び「Ⅱ 業務の執行等に重大な影響を及ぼす情報」が含まれていない。
- ☑ 著作権・商標権・個人の権利等を侵害していないことか確認できている。
- ☑ 根拠や正当性が確認できており、かつ、偏った価値観による無意識の思い込みや差別的内容が含まれていないことを確認できている。
- ☑ 所属長等の決裁・承認により組織的に用いることについて組織で意思決定がされている。
- ☑ 生成AIにより作成されていることを明記している。

**※ルール「その1」から「その4」が守られていることが前提**

## 2 問題発生時の対応等

生成AIの利用にあたり、問題が発生した場合は、山口県情報セキュリティポリシーに従い速やかに対応してください。



## IV 活用事例

- 1 プロンプト（生成AIへの指示文）の作成手法
- 2 有効な活用分野・事例、有効でない事例の紹介

# 1 プロンプト（生成AIへの指示文）の作成手法

プロンプト（生成AIへの指示文・質問文）については、現状、求める応答を引き出すための「コツ」が必要です。以下に、主なものをご紹介しますので、業務での効果的な活用に向けて、参考にしてください。

## ■ 文章作成の基本的なポイント

- ① プロンプトは具体的かつわかりやすい言葉で作成する
- ② 条件などがある場合は、明確に指示する
- ③ 生成された回答に対し、指示を繰り返すことにより回答を修正させることもできる
- ④ 生成する文章の定量を明確に指定する  
（ 例） ○ 100文字程度、500文字以下  
      × 簡潔に説明してください ）
- ⑤ 文章を生成する立場を明確に指示する

※生成AIは、学習したデータを基に質問に対して、適切だと思われる回答文を統計的に予測して回答しているものです。そのため、明確な表現で必要とする回答を絞り込んでいく細かな条件付けが不可欠です。

前項で示した「文章作成の基本的なポイント」に基づいた具体的な「入力手法」を以下に示していますので、参考にしてください。

- 01 明確な指示を含めて質問する
- 02 明確な役割を与える
- 03 回答例を提供する
- 04 回答結果の長さを指定する
- 05 区切り文字を使用する
- 06 ステップに分けて質問する
- 07 参考文献を情報として与える
- 08 複雑な質問がある場合は、単純な質問に分割する

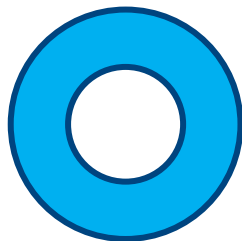
< 参考 > OpenAI Help Center Best practices for prompt engineering with OpenAI API



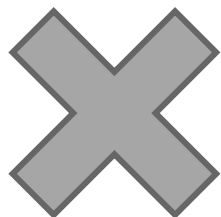
# 01

## 明確な指示を含めて質問する

いつ・どこで・だれが・なにを・どれくらい、等を含めて質問する



2007年4月の日本の総理大臣は誰で、その選出方法はどんな方法ですか。



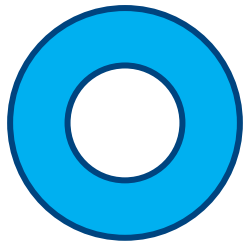
日本の総理大臣は誰ですか。

※ いつの情報がほしいのか明示されていない

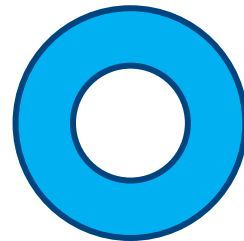
プロンプトに詳細情報、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どれくらい」等を含めるようにしましょう。あいまいな質問でも生成AIは回答しますが、質問内容を勝手に推測して、間違った回答を生成する場合があります。

## 02 明確な役割を与える

生成AIに特定の役割(キャラクターや立場)を与えることで、より一貫性のある回答を得られる



あなたは県庁の職員です。  
庁内のDX推進に関して、庁内職員全員に周知する方法を考えてください。



あなたは一流のライターです。  
地方創生に関するブログ記事のタイトルと、章立てを考えてください。

※他にも、「会議で独創的な意見を出す人物」「プロの編集者」など、求める回答を引き出す条件として、「立場」を明確化

質問する際、生成AIに特定の立場やキャラクターを与えることで、より一貫性のある回答を得ることが出来ます。この立場の人の意見が欲しい等を想定して、生成AIに役割を与えてください。

## 03 回答例を提供する

あらかじめ回答例を提供することで  
意図しない形式で回答が生成されることを防ぐ



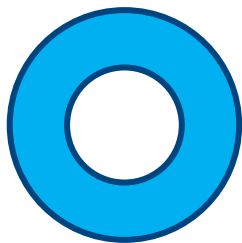
提示した単語が「ポジティブ」か「ネガティブ」か判断して回答してください。  
回答の仕方は以下の通りです。

嬉しい → ポジティブ  
悲しい → ネガティブ  
寂しい →

例えば、「嬉しい → ポジティブ」「悲しい → ネガティブ」と回答方法を例示したことで、回答の法則性を生成AIが理解し、「寂しい」に対しての回答を導き出します。

## 04 回答結果の長さを指定する

回答させる文量(文字数)、回答数(単語、文、段落、箇条書き、など)を指定する



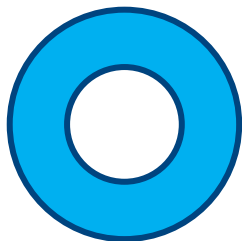
以下のテキストを50文字で要約してください。

##

(テキスト)

##

※指示と要約するテキストとの区分には注意

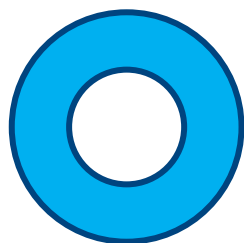


以下のテキストを5つの箇条書きでまとめてください。  
(テキスト)

生成AIに回答させる際の文量（文字数）や、段落数や箇条書きの数を指定しましょう。

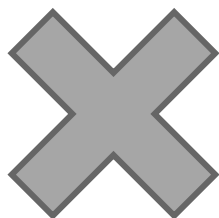
## 05 区切り文字を使用する

プロンプトの先頭に指示を配置して  
指示とテキストを「##」や「””」を使って分離させる



以下のテキストの要約を、箇条書きにまとめてください。

```
##  
(text)  
##
```



以下のテキストの要約を、箇条書きにまとめてください。  
(text)

※指示と要約して欲しいテキストが区分されていない

プロンプトは先頭にこうしてほしいという指示を配置すると、回答が生成されやすくなりますがそのあとにテキストや条件を記載する場合、区別が付くように、シャープ（##）やダブルクォーテーション（””）を間に挟んでおきましょう。指示の後にそのまま記載すると生成AIが正しく区別できない可能性があります。

質問が複雑な場合、手段をいくつかに分けて指示することでより精度の高い回答結果が得られやすくなる

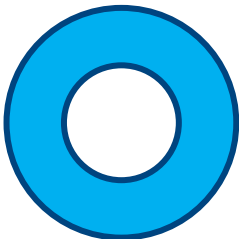
以下のようにステップを踏んで段階的に指示してください。

ステップ1 ##でテキストを提供します。このテキストに従って「要約：」という接頭語で英語のまま一文にまとめてください。

ステップ2 ステップ1の要約を日本語に翻訳し、「翻訳：」という接頭語でまとめてください。

例えば、英語の論文を日本語に要約したい時、一度に翻訳と要約を指示すると正しい回答が生成されないことがありますので、「要約⇒翻訳」というステップを踏んで段階的に指示してください。

生成AIに読み取ってほしい文献を提供することで  
文献内から情報を得ることが可能



以下のテキストから質問に答えてください。  
答えが見つからない場合は  
”答えが見つかりませんでした。”と回答してください。  
##  
(参考文献)  
##  
質問：

生成AIは誤った情報を場合があります。それを回避する方法の1つが、参考文献を提供することです。こちらから読み取ってほしい文献を提供することで、文献内から情報を得ることが可能です。

生成AIに質問項目を分割して、一つずつ解決する

上司へ、報告資料をメールで送る際の注意事項について教えてください。

1. 口調や文体で気を付ける点はありますか。
2. メールを送るタイミングはいつが良いですか。
3. CcやBccには誰を含めるべきですか。
4. セキュリティ面で気を付けることはありますか。

複雑な質問で指示すると、回答の精度が低くなる場合があります。そのような場合には、質問項目を分割してひとつずつ解決するようにしましょう。この例では、上司の方に報告書を送る際の注意事項を質問しています。その際「1. 口調」「2. タイミング」「3. CcやBcc」「4. セキュリティ」と、質問内容を分割することで回答を得やすくなります。



### (1) 有効な活用分野

- ① 対話形式による情報収集
- ② 業務の論点・課題の洗い出し
- ③ 企画立案に向けたアイデア出し
- ④ 作業手順・手法の提案を求める
- ⑤ システム等へ入力するコードの下書き
- ⑥ 立場に応じた説明・言い替え
- ⑦ 公開情報や公開を前提とした文書の要約、校正、翻訳
- ⑧ あいさつ文や説明文、想定問答の下書き
- ⑨ ブレインストーミング



## (2) 有効な活用事例 (※庁内での具体的な活用事例から、その一部を実例として掲載)

### ① 対話形式による情報収集

質問

学校の危機管理マニュアルのフロー図作成のポイントを教えてください。

回答

学校の危機管理マニュアルのフロー図を作成する際のポイントを以下に示します。

目的と範囲の明確化: マニュアルの目的と範囲を明確に定義しましょう。どのような危機状況をカバーするのか、どの部門や関係者が関与するのかを考慮します。

プロセスの整理: 危機管理に関連するプロセスを整理し、段階的な手順とフローを作成します。たとえば、危機の発生、情報収集、対応策の検討、関係者への通知、状況の監視などのステップを含めます。

担当者と役割の明確化: 各プロセスにおける担当者と役割を特定しましょう。誰がどの段階で責任を持ち、どのような行動をとるべきかを示します。また、代替担当者や連絡先情報も含めます。

情報フローの明確化: 危機発生時に情報がどのように流れるかを明確化します。上層部からの指示、関係者間の連絡、保護者やメディアへの情報提供など、情報の収集、伝達、共有のプロセスを示します。

意思決定の手順: 重要な意思決定が必要な場合、その手順を示します。例えば、学校の閉鎖や緊急連絡の発令など、迅速な判断が求められる場合には、意思決定のプロセスを明確にします。

連携体制の確立: 学校内部や学校外の関係者との連携体制を確立します。教職員、保護者、地域の組織、救急機関、警察など、関係者との連携手段とプロトコルを示します。

トレーニングと評価: マニュアルの効果を最大限にするために、定期的なトレーニングや評価を実施します。危機管理チームの訓練、シミュレーション演習、マニュアルの改善などを行います。シンプルでわかりやすい表・・・

## ① 対話形式による情報収集

質 問

続けてください。（※生成AI側の回答が途切れた場合は、再質問が必要！）

回 答

すみません、先程の文章が途切れてしまいました。以下に続きます。

シンプルでわかりやすい表現: フロー図はできるだけシンプルでわかりやすい表現にすることが重要です。無駄な詳細や複雑な記号は避け、視覚的に理解しやすい形式を選びましょう。色や線の太さを使って重要な要素や優先順位を示すことも有効です。

レビューと改善: フロー図の作成後は、関係者や危機管理チームによるレビューを行いましょう。他の人々の視点を取り入れることで、フロー図の明確さや効果を向上させることができます。また、実際の危機事例やシミュレーション演習を通じて、マニュアルとフロー図の改善点を特定し、必要な修正を行いましょう。

定期的な更新と配布: 危機管理マニュアルやフロー図は、時代や状況の変化に応じて定期的に更新される必要があります。新たな危機事例やベストプラクティスを反映させることで、マニュアルの有効性を確保します。更新版のマニュアルとフロー図を関係者に適切に配布し、認識と理解を促進しましょう。

以上が学校の危機管理マニュアルのフロー図作成のポイントです。これらのポイントに従って、マニュアルとフロー図を作成し、学校の危機管理体制を強化してください。

## ② 業務の論点・課題の洗い出し

### 質 問

橋梁などインフラの長寿命化について、住民説明をする公務員の立場で、問題点と課題について説明してください。

### 回 答

橋梁や他のインフラストラクチャーの長寿命化に関する問題点と課題について説明いたします。

**老朽化と維持管理費用:** 多くの橋梁やインフラストラクチャーは長期間使用されるため、時間の経過とともに老朽化します。老朽化により、構造物の耐久性や安全性に懸念が生じる可能性があります。また、維持管理には多額の費用がかかります。公共資金の限られた予算内で、効果的な維持管理戦略を策定する必要があります。

**技術進歩への追従:** インフラストラクチャーの長寿命化には、最新の技術や設計基準への追従が必要です。技術は日々進歩しており、新しい素材や構築方法が開発されています。長期間使用される構造物の場合、初期の設計が現在の要件に合致しているかどうかを定期的に評価し、必要に応じて改修やアップグレードを行う必要があります。

**経済的制約:** インフラストラクチャーの長寿命化は経済的な制約も伴います。予算の制約や資金不足のため、すべての橋梁やインフラストラクチャーを同時に改修することはできません。優先順位を設定し、最も重要度の高いプロジェクトに資金を配分する必要があります。このため他の橋梁やインフラストラクチャーはより長い期間、老朽化のリスクにさらされる可能性があります。

**環境への配慮:** 橋梁やインフラストラクチャーの長寿命化に取り組む際には、環境への配慮も重要な要素です。持続可能な素材や施工方法の採用、環境への負荷を最小限に抑える取り組みが求められます。また、老朽化した構造物の解体や再利用の方法も検討する必要があります。

**コミュニケーションと関与:** 長寿命化の計画や改修工事は、地域住民にとっても重要な問題です。地域住民への説明や関与を通じて、計画や工事の進捗状況、安全性に関する情報を提供することが必要です。また、住民からのフィードバックや懸念にも対応する必要があります。以上が橋梁や他のインフラストラクチャーの長寿命化に関する問題点と課題の一部です。公務員としては、これらの課題に対処し、持続可能なインフラストラクチャーの整備に向けた努力を行っています。

### ③ 企画立案に向けたアイデア出し

#### 質問

高校生が自転車乗車時にヘルメットを着用することを推進するため、動画コンテストを開くので、募集要項を作成して。

#### 回答

##### 【自転車ヘルメット着用推進動画コンテスト 募集要項】

コンテストの目的：自転車乗車時の安全意識を高め、特に高校生に対して自転車ヘルメットの着用を推進するため、この動画コンテストを開催します。参加者は自転車ヘルメットの重要性や着用の意義を広く伝える魅力的な動画を制作し、共有することを目指しています。

参加資格：本コンテストは、日本国内の高校生を対象としています。個人またはグループ（最大5人まで）での参加が可能です。参加者は、所属学校名および年齢を明記してください。

募集テーマ：「自転車ヘルメットの大切さを伝えよう」

自転車ヘルメットの着用に関するメッセージを伝えることを目的とした動画を制作してください。自転車の安全性やヘルメットの効果、自身や周囲の人々の経験談などを取り入れることで、参加者に訴求力のある作品を作り上げましょう。

動画の要件：動画の長さは、3分以内とします。動画の形式は、MP4またはMOVとして提出してください。動画の解像度は、720P以上を推奨します。音声は日本語であることを前提とします。英語の字幕を付けることも可能ですが、日本語音声の方が望ましいです。

エントリー方法：募集期間中に、作品を応募することができます。作品の応募は、指定のメールアドレス（例: DEOCONTEST@EXAMPLE.COM）に動画ファイルを添付して送信してください。メールの件名には、「自転車ヘルメット着用推進動画コンテスト 応募」と明記してください。メール本文には、作品のタイトル、参加者の氏名、所属学校名、年齢、連絡先情報（電話番号、メールアドレス）を必ず記載してください。

締め切り：応募締切は、2023年6月30日（金）の23:59（日・・・）

### ③ 企画立案に向けたアイデア出し

質問 続けてください。（※トークン制限等のため、生成AI側の回答が途切れた場合は、再質問が必要）

#### 回答

）までとします。締切後の応募は受け付けませんので、お早めにご応募ください。

審査と結果発表：提出された動画は、審査員によって独立して評価されます。審査基準は、メッセージの明確さ、創造性、映像表現の質などです。審査結果は公平かつ公正に行われ、最終的な判断は審査員の裁量によります。

受賞者と賞品：上位3作品が選ばれ、以下の賞品が授与されます。

第1位：賞金10,000円と表彰状 第2位：賞金5,000円と表彰状 第3位：賞金3,000円と表彰状

また、優秀な作品があれば、特別賞として表彰される場合もあります。

著作権と利用許諾：応募された動画の著作権は、制作者に帰属しますが、主催者は応募作品を広報活動や関連イベントなどで使用するための非独占的な利用許諾を得るものとします。

免責事項：応募者は、自身の作品に関する全ての法的責任を負います。また、主催者は、応募作品の内容や第三者の著作権侵害に関して一切の責任を負わないものとします。

この募集要項は、参加者の皆様が公平かつ円滑にコンテストに参加できるように定められました。ご応募の際には、要項をよくお読みいただき、指示に従って作品を提出してください。質問や疑問がある場合はお気軽にお問い合わせください。ヘルメットの着用を推進する動画コンテストへの参加をお待ちしております！

## ④ 作業手順・手法の提案を求める

質 問

海岸のフラップゲートに汚れや障害物が付きにくくする対策について考えて。

回 答

海岸のフラップゲートに汚れや障害物が付きにくくするための対策には、以下の方法が考えられます。

防汚コーティングの使用: フラップゲートの表面に特殊なコーティングを施すことで、汚れや付着物が付きにくくなります。防汚コーティングは撥水性や撥油性を持つものが一般的であり、これにより海藻や砂などの付着を軽減することができます。

水流の誘導: フラップゲートの周囲の設置や形状を工夫して、海水の流れを誘導することで、汚れや障害物の付着を最小限に抑えることができます。水流を速めるための傾斜や誘導板を設置したり、周囲の地形を調整することで効果を発揮します。

自己洗浄機構の導入: フラップゲートには自己洗浄機構を備えることも考えられます。例えば、定期的な間隔でフラップゲートを開いて海水を通過させ、付着した汚れや障害物を洗い流す機構を組み込むことができます。

適切な設置位置の選定: フラップゲートの設置位置を慎重に選定することも重要です。海流や潮汐の影響を受けにくい場所や、特定の汚染源から離れた位置に設置することで、汚れや障害物の付着を軽減することができます。

定期的な点検と清掃: フラップゲートを定期的に点検し、汚れや障害物を早期に除去することが重要です。定期的な清掃スケジュールを設けて、メンテナンスを適切に行うことで、フラップゲートの状態を良好に保つことができます。

## ⑤ システム等へ入力するコードの下書き

### 質 問

次の条件を満たすエクセルのマクロを書いてほしい。一歩ずつやって。エクセルファイル中のJ列からM列、7行目から25行目に関して。左から順に全てのシートで新しいシートへ上から転記する。

### 回 答

```
Sub CopyColumnsToNewSheet()  
    Dim ws As Worksheet 'シートを扱うための変数  
    Dim newSheet As Worksheet '新しいシートを扱うための変数  
    Dim lastRow As Long '最終行を格納する変数  
    Dim copyRange As Range 'コピーする範囲を扱うための変数  
    '新しいシートを作成  
    Set newSheet =  
_ThisWorkbook.Sheets.Add(After:=  
_ThisWorkbook.Sheets(ThisWorkbook.Sheets.Count))  
    newSheet.Name = "CopySheet" '新しいシートの名前を設定  
    '全てのシートに対して処理を繰り返す  
    For Each ws In ThisWorkbook.Sheets  
    'J列からM列の7行目から25行目の範囲を取得  
        lastRow = ws.Cells(Rows.Count, "J").End(xlUp).Row  
        Set copyRange = ws.Range("J7:M" &  
        lastRow).Resize(19)
```

```
    '取得した範囲を新しいシートにコピー  
        copyRange.Copy  
        Destination:=newSheet.Cells(Rows.Count,  
        "A").End(xlUp).Offset(1)  
    Next ws  
End Sub
```



## ⑥ 立場に応じた説明・言い替え

質 問

ふるさと納税の仕組みについて、小学生にわかるように説明をお願いします。

回 答

ふるさと納税は、地域の活性化や地域の魅力づくりを支援するための制度です。具体的には、自分のふるさとと思う地域に寄付をすることで、その地域に住んでいる人々や地域の活動を応援することができます。

ふるさと納税をすると、お礼の品がもらえることが特徴です。例えば、その地域の特産品や名産品、観光情報のパンフレット、地域の特別な体験などがもらえます。これは、ふるさと納税をした人に感謝の気持ちを伝えるためのものです。

ふるさと納税の仕組みは、大まかに言うと以下のような流れです。

まず、自分がふるさと納税をしたい地域を選びます。これは、自分が生まれ育った地域や思い出のある地域など、特に応援したいと思う地域です。

選んだ地域のふるさと納税のウェブサイトや申し込み用紙を使って、寄付をすることができます。寄付金の金額は、自分で決めることができます。ただし、一定の金額以上を寄付する必要がある場合もあります。寄付金を送った後、しばらくするとお礼の品が送られてきます。お礼の品は、地域の特産品や名産品など、その地域ならではのものが多いです。お礼の品は、ふるさと納税をした人に対する感謝の気持ちを示すものです。

ふるさと納税をすることで、自分が応援したい地域を支援することができます。また、お礼の品をもらうことで、その地域の特産品や文化に触れることができるので、地域の魅力を知るきっかけにもなります。ふるさと納税は、地域の発展や地域の魅力を守るために大切な制度です。自分がふるさと納税をすることで、地域の応援や交流を広げることができます。

## ⑦ 公開情報や公開を前提とした文書の要約、校正、翻訳

**質 問** 上記の内容（前ページの小学生向けふるさと納税の説明文）を200字で要約してください。

### 回 答

ふるさと納税は地域の活性化や魅力づくりを支援する制度で、寄付をすることで地域の人々や活動を応援できます。

お礼の品がもらえ、特産品や観光情報などが提供されます。手順は地域選択→ウェブサイトまたは申し込み用紙から寄付→お礼の品受け取りです。自分が応援したい地域を支援し、その地域の特産品や文化に触れることができます。

ふるさと納税は地域発展や魅力維持に重要な制度であり、交流拡大にも役立ちます。

(194字)

## ⑧ あいさつ文や説明文、想定問答の下書き

質 問

公務員が職場でChatGPT3.5を試験的に導入した。これを職場のインフォメーションでアピールするメッセージを以下の条件で作成してほしい。

- ・ エクセルのマクロを作成した。
- ・ これをTableauに取り込んで利用した。
- ・ 投稿する内容は仮にネット上で不特定多数の人が見ても問題ない内容にだけである。
- ・ 課内で協議を重ねた
- ・ 内部データを決してチャットに投稿しないように決めている。

回 答

職場の皆様へ

この度、公務員の皆様にお知らせです。私たちは、ChatGPT3.5を試験的に導入しました。この導入により、エクセルのマクロを作成し、Tableauに取り込んで利用することが可能になりました。

また、この導入にあたり、課内で協議を重ね、内部データを決してチャットに投稿しないように決め、投稿する内容は仮にネット上で不特定多数の人が見ても問題ない内容にだけに限定しています。

ChatGPT3.5は、言語モデルの一種であり、自然言語でのコミュニケーションが可能なAIです。私たちはこのツールを活用することで、より効率的なコミュニケーションやタスクの自動化が可能になることを期待しています。私たちの目的は、業務効率化を図り、よりスムーズなコミュニケーションを実現することです。

しかしながら、私たちは常にセキュリティに十分配慮しており、内部データの保護に万全を期しています。また、投稿する内容についても慎重に検討し、個人情報や機密情報など、外部に漏れてはならない情報を含まないようにしています。

今後も、職場の業務を効率化し、より良い環境を実現するため、様々なツールや技術の導入に努めてまいります。引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。（敬具）

## ⑨ ブレインストーミング

### 質 問

**地域の安全情報について、県の公務員として、県民に情報提供を行うことを想定した際に、どのような質問を投げかけると良いですか？**

### 回 答

地域の安全情報について、以下のような質問を投げかけると良いでしょう。

犯罪や事件に関する情報:「最近、地域で発生している主な犯罪は何ですか?」「特定の地域で注意が必要な治安上の問題はありますか?」

災害や緊急事態に関する情報:「最新の災害情報や避難勧告はありますか?」「地震や洪水などの災害に備えるための具体的な対策は何ですか?」

交通安全に関する情報:「最近、交通事故の多い箇所や事故原因は何ですか?」「特定の道路や交差点での安全対策は進んでいますか?」

消防・救急・警察などの緊急サービスに関する情報:「緊急時に連絡すべき電話番号は何ですか?」「近くにある救急センターや警察署の場所と営業時間を教えてください。」

防犯対策や安全意識の向上に関する情報:「地域の防犯対策に協力するためにできることは何ですか?」「安全意識を高めるためのイベントや教育プログラムはありますか?」

これらの質問は、地域の安全情報に関する基本的な情報を得るための手段として役立つでしょう。

ただし、具体的な地域や県の事情に応じて、質問内容をカスタマイズすることが重要です。

また、質問に対する回答は、常に最新の情報であるわけではないため、公式な情報源や地方自治体のウェブサイトなどの確認も重要です。

## ⑨ ブレインストーミング（再質問で、より一般化した回答へ）

### 質 問

しかし、あなたが把握しているとおり、チャットGPTが提供する情報は最新のものではありません。県民に最新ではない情報を提供する訳にはいきません。より普遍的な活用が出来る情報の提供をすることを想定して再度回答してください。

### 回 答

おっしゃる通り、チャットGPTは最新の情報を提供することはできません。そのため、より普遍的な活用ができる情報の提供に焦点を当てた回答を提供します。以下に例を示します。

犯罪予防に関する情報:「自宅のセキュリティを向上させるための基本的な対策は何ですか?」「夜間の外出時に安全を確保するためのアドバイスを教えてください。」

防災意識の向上に関する情報:「地震や台風などの災害に備えるための基本的な準備は何ですか?」「地域の避難場所や避難計画について教えてください。」

交通安全に関する情報:「子供の通学路の安全確保についてのアドバイスを教えてください。」「運転中のスマートフォンの使用による事故を防ぐための方法がありますか?」

緊急時の対応に関する情報:「緊急時に必要な持ち物や非常食についてのリストを教えてください。」「緊急時に隣近所とのコミュニケーションを確保するための方法がありますか?」

防犯啓発に関する情報:「地域の防犯パトロールや地域活動への参加方法を教えてください。」「セキュリティ意識を高めるためのイベントや講座はありますか?」

これらの質問は、一般的な安全や防犯に関する情報を提供するものです。チャットGPTの提供する情報は、公務員が一般的なアドバイスや基本的な情報を提供する際の参考となるでしょう。しかし、最新の情報を提供するためには、地方自治体の公式ウェブサイトや専門機関の情報源を確認することをおすすめします。

## ⑨ ブレインストーミング（再々質問で、限定した回答へ）

質 問

ありがとうございます。では、普遍化した質問を県民がリストの様なものを見ながら質問するために、交通安全に絞って、10個程質問を作成してください。

回 答

もちろんです。以下に交通安全に関する普遍的な質問のリストをご提供します：

- 「子供の通学路の安全を確保するためにできることは何ですか？」
- 「運転中の注意力を高めるための方法がありますか？」
- 「交差点での事故を予防するためのアドバイスを教えてください。」
- 「ペットを安全に車で移動させるための対策がありますか？」
- 「運転中のスマートフォンの使用による事故を防ぐための方法がありますか？」
- 「夜間の運転時に安全を確保するための注意点を教えてください。」
- 「自転車の交通ルールについて教えてください。」
- 「高速道路での安全運転についてのアドバイスを教えてください。」
- 「飲酒運転を防ぐための取り組みについて教えてください。」
- 「歩行者との共存のための運転マナーについて教えてください。」

これらの質問は、一般的な交通安全に関するテーマに焦点を当てています。県民がこれらの質問を参考にしながら、交通安全意識を高めることができるでしょう。

ただし、具体的な地域や交通事情によって異なる要素が存在する可能性があるため、地方自治体の公式な情報源や交通局の指針を確認することも重要です。

### (3) 有効でない事例

- ① 固有物(人・地名等)の特徴について尋ねる
- ② 単語だけで一回のみの抽象的な質問をする
- ③ 最新の情報やトレンドについて尋ねる
- ④ 感想を尋ねる



## ① 固有物(人・地名等)の特徴について尋ねる

質 問

きらら博記念公園について教えてください。

回 答

きらら博記念公園は、**山口県下関市**にある広大な公園です。以下に詳細をご説明します。

きらら博記念公園は、**2006年に開催された「きらりと輝く日本の花と緑の博覧会」**（通称：**きらり博**）の跡地を再利用して作られました。広さは約29ヘクタールあり、四季折々の美しい自然や花々が楽しめます。

この公園では、多種多様な植物が栽培されており、季節ごとに異なる花々が咲き誇ります。春には桜やチューリップ、バラなどが彩りを添えます。夏にはハスやオニユリなど水辺の花々が見頃です。秋にはコスモスやダリアなど秋色の花で彩られます。そして冬でもカラフルな寄せ植えやイルミネーションで訪れる人々を楽しませてくれます。

また、敷地内には遊具や広場も整備されており、家族連れや子供たちも楽しめる施設として人気です。ピクニックエリアではゆったりとした時間を過ごすこともできます。

さらに、「**キャロットタワー**」と呼ばれる**展望塔**からは360度パノラマビューが楽しめます。周囲の景色を一望することで山口県**下関市**の美しさを感じることができます。

**入場料金等詳細情報は正確性保持上提供しかねますので、実際に訪れる前に公式ウェブサイト等から最新情報をご確認ください。**  
ぜひきらら博記念公園へ足を運んでみてください！



## ② 単語だけで一回のみの抽象的な質問をする

質 問

人生とは何？

回 答

「人生」とは、個々の人が生まれてから死ぬまでの時間や経験を指す言葉です。人間が存在し、成長し、喜びや苦難を経験する過程全体を包括しています。

人生は一意であり、それぞれの個人にとって独自の旅路です。幸福や成功、挫折や困難などさまざまな出来事や感情が交錯します。また、目標設定や夢の追求、関係構築なども含まれます。

一般的には、「人生」は限られた時間内で自己実現を追求することだと考えられることもあります。その中で自己発見・成長・学習・愛情・喜び・貢献など多くの要素が重要視されます。

**ただし、「人生」という概念は非常に広範かつ主観的なものであり、それぞれ異なる解釈が存在します。個々の価値観や信念によって捉え方も異なります。**

**したがって、「人生」という言葉に対して一つだけ正確な定義を与えることは難しいです。それぞれが自身の経験と価値観から意味付けすることが重要です。**

### ③ 最新の情報やトレンドについて尋ねる

質 問

今日の天気を教えて

回 答

申し訳ありませんが、**私はチャットボットであるため、現在の天気情報を提供することはできません。**天気予報に関しては、インターネット上の天気予報サイトやスマートフォンの天気アプリなどをご利用いただくことをおすすめします。そちらで正確かつ最新の情報を入手することができます。お出かけや日常生活に役立ててくださいね！

## ④ 感想を尋ねる

質問 山口県が好きですか？

回答

**私は感情を持たないチャットボットですので、好きや嫌いという感情を抱くことはありません。**

ただし、山口県には魅力的な要素が多くありますので、多くの人々が山口県を好きだと思っています。

自然環境や食文化、歴史・文化などが魅力的であるとされています。

しかし、**個人の好みや価値観によって異なる場合もあります。そのため、「山口県が好きかどうか」は個人の意見によりますし、実際に訪れて体験してみることが一番良い方法です。**

もしご興味があれば、ぜひ一度山口県を訪れてみてください。自分自身でその地域の雰囲気や魅力を感じ取ることができるかもしれません。

※以上、①から④でお示した事例については、P22でも記載しているように、生成AIは膨大なデータの中から統計的に回答を予測し「自然な」回答を生成しているものであり、AIが人間のように思考して回答しているものではありません。そのため明確な条件付けや、複数回のやり取りで回答を引き出す必要がありますし、P18にも記載しているように、生成AIの回答に「偏向」や「偏見」がないかを確認することも重要です。

## V 利用技術の向上

- 1 必要な利用技術
- 2 デジタル人材育成研修

現状、対話式文章生成AIは、「調べる」・「文章を作る」・「コード、Excelの関数を作成する」ことに適していますが、その一方で、生成された回答には誤りが含まれていることもあり、「固有の情報に正確に答える」・「判断を下す」・「最新の情報を回答する」ことには適していません。

そのため、利用にあたって、AIがどのような仕組みで回答を生成するのか、得意なこと・苦手なことは何なのか、など基礎的な知識を得ておく必要があります。

また、生成AIを利用するに当面のテクニックとして「プロンプト」(生成AIに入力する指示文)をいかに工夫し、的確な回答を引き出すかも必要になりますが、プロンプト技術は、あくまで、生成AIを使いこなすための「コツ」であり、今後、生成AIをはじめとする進展するAI技術を使いこなしていくためには、「問い」や「仮説」を立てる力に係る知識、技能の習得が必要になります。

## [今後求められる主な知識・技能等]

### ① AIの特性習得等

業務効率化や県民サービスの向上に向けて、行政分野におけるAIの利活用促進が求められる中で、日々進歩する技術動向を把握するとともに、得意、不得意、メリット、デメリットを把握し、導入・活用していくことが重要です。

### ② プロンプトエンジニアリング

当面の利用技術として、「プロンプトのコツ」を押さえた上で、利用することが効果的であり、以下の「ベストプラクティス例」や、「IV「活用事例」に記載の「プロンプトの作成手法」や、様々な「活用事例・実績」等を参考に日々の業務に積極的に活用してください。

### 《ベストプラクティス例》

- ① 明確な指示を含めて質問する
- ② 明確な役割を与える
- ③ 回答例を提供する
- ④ 回答結果の長さを指定する
- ⑤ 区切り文字を使用する
- ⑥ ステップに分けて質問する
- ⑦ 参考文献を情報として与える
- ⑧ 複雑な質問がある場合は、単純な質問に分割する

## ③ デザイン思考

「デザイン思考」とは、既存の考え方にとらわれず、人々の抱える課題や問題点を具現化し、様々な角度から解決案を複数用意して解決に導いていく「思考法」であり、今後、地域課題の解決や新たな価値の創造に向けて、重要なスキルとして期待されています。

生成AIをはじめ、AI技術が進展していく中で、「問い」や「仮説」を立てる力など、高度な思考能力が益々重要になる中で、こうした技術の向上が求められています。

## ④ デジタル時代のマネジメント能力

生成AIをはじめ、デジタル技術が急速に進展する中で、その業務・施策への有効な活用に向けて、組織として、業務等をマネジメントしていくことが重要となっています。

そのため、組織や業務管理者である、管理職等を中心に、デジタル技術を業務へ円滑に取り入れる手法や、職員のデジタルスキルのレベルに応じた業務の配分方法等を構築していくことが重要となっています。

生成AIをはじめ、AI関連の利活用に係る必要な研修等をデジタル人材育成研修等において、e-ラーニング等を基本に実施中（グループウェアのe-Learningサイトに掲載）。今後とも積極的な活用をお願いします。

（※以下は令和5年度の主な内容であり、令和6年度以降は変更される場合もあります。）

NO	研修内容	目的	キャリアパス
1	AI基礎	AIの基礎知識、AIを使ったサービス、導入事例について講義。	一般職員 （デジタル利活用人材育成）
2	AI一般	AIの仕組みを理解し、参考事例を基に実務で導入する際のポイントについて講義。	一般職員 （デジタル推進リーダー人材育成）
3	AI（プロンプトエンジニアリング）	生成AI（文章生成用）において、業務活用に重要なスキルである、プロンプトエンジニアリング（的確な指示により望んだ成果物を引き出す技術）に重点を置いた講義	一般職員 （デジタル推進リーダー人材育成）
4	デジタル化マネジメント	AI技術等、DXの最新動向や事例により知見を高め、横断的な視点からDXを牽引、推進するための講義・演習	管理職員 （デジタルマネジメント人材育成）
5	デジタル化リーダーシップ①	AI技術等、DX推進、DX推進する際の課題解決等のリーダーシップ手法に関する講義、演習	一般職員（デジタル専門人材、デジタル推進リーダー人材育成）
6	デジタル化リーダーシップ②	AI技術等、DXに関する最新かつ幅広い知見を習得するための人材育成プログラム。各部局等のエバンジェリスト（先導者）を育成する研修	一般職員（デジタル専門人材、デジタル推進リーダー人材育成）
7	デザインシンキング基礎	多様なニーズに応えるサービスを創出ための思想、プロセスについて講義	一般職員 （デジタル利活用人材育成）
8	マインドセット	デザインシンキング、UI/UX、DXの要点をまとめた講義	全職員
9	イノベーションのためのデザインシンキング①	多様なニーズに応えるサービスを創出ための思想、プロセスについて学ぶとともにサービスや業務へ実装する際のポイントについて講義等	一般職員 （デジタル推進リーダー人材育成）
10	イノベーションのためのデザインシンキング②	デザイン思考による課題設定からアイデア創出まで一連の流れを体感できるワークショップ等	一般職員 （デジタル推進リーダー人材育成）

## VI 参考資料

- ・ その他のガイドライン等



現在、国、地方において、生成AIの導入・利活用が進んでおり、それぞれ、利活用に係る「ルール」「ガイドライン」が策定されています。

特に、国においては、事業者向けや、利用環境に応じたガイドライン等の作成を進めており、以下にそのアクセス先（URL）を掲載しますので、必要に応じて参考にしてください。

一般社団法人ディープラーニング協会      ディープラーニングを中心とする技術による日本の産業競争力の向上を目指す団体。生成AIの活用を考える組織がスムーズに導入できるよう、利用ガイドラインのひな形を策定し公開  
<https://www.jdla.org/document/>

文部科学省      学校現場における生成AIの利活用に係る暫定的なガイドラインを公開  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/mext\\_02412.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html)

内閣官房      新AI事業者ガイドライン スケルトン（案）※現在策定中  
[https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai\\_senryaku/5kai/gaidorain.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_senryaku/5kai/gaidorain.pdf)

東京都デジタルサービス局      地方自治体の職員利用ガイドライン の一例  
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/08/23/14.html>